

カタルーニャ・クロッシング

カタルーニャと日本。人や企業、そして芸術、生活がクロスする現場を探ります。

第11回 **加賀谷 順一 氏** IESEビジネススクール 東京オフィス
マネージング・ディレクター エグゼクティブ教育部門アジア統括

「ヨーロッパ最古、世界トップランクのビジネススクールはバルセロナという街、経済、社会そのものです」

今回は久しぶりの対面インタビューです。バルセロナにある世界トップランキングのビジネススクールIESE（イエセ）です。ビジネススクールというとアメリカに目がいきますが学ぶ場としてのバルセロナではどんなクロッシングが？



AMICS 今日はよろしくお願ひします。入り口でIESE（イエセ）のロゴを拝見しましたが、ナバラ大学の名前が入ってますね。

加賀谷 正確には総合大学であるナバラ大学の経営大学院という位置付けになります。パンブローナに本部があるナバラ大学は1952年にカトリック神父が数名の教授と共に創設した私立大学です。1950年代のスペイン、特に商業の街として経済発展を続けていたバルセロナでは、同時に貧富の格差も広がっていました。そうした状況を憂慮したナバラ大学はバルセロナの有力者に呼びかけ1958年にIESEを設立しました。個人、企業や経済、環境や社会がバランスよく成長していかなければ結局、企業もダメになる。長期視点を持つ企業経営者を育成するビジネススクールが必要だと説かれたのです。1958年創設は現存するヨーロッパのビジネススクールでは最古になります。

AMICS 加賀谷さんご自身もIESEの卒業生と伺いました。

加賀谷 大学時代にマドリッドでの留学経験があったんです。大学卒業後東京でベンチャーを経験した後の2009年、個人でMBA留学したのがバルセロナのIESEです。2年間学びました。卒業後はいったん日本に戻ってコンサル業に進もうと考えていたところ、当時のIESEの学長から、アジアからの留学や企業との関係構築を強化したいという今の仕事の誘いを受け、乗ってみることにしました。アジア拠点の開発準備でさらに2年間をバルセロナで送りました。現在はインド東部のアジア地区、インド、中国、ASEAN、韓国、日本の企業担当をしています。企業の人材育成プログラムとしてIESEを活用していただくべく、さまざまな企業の幹部や人事の方にお願いしご提案しています。とくに日本企業は社内大学を持つところもあるように、人材育成に投資をするカルチャーがあります。またヨーロッパのビジネススクールへの派遣は物価の面でも安くはありませんので、アジアで一番成熟した経済である日本での仕事がいざと多くなってきます。

AMICS ビジネススクールのランキングもかなり上位と伺っていま

すが、IESEの特徴をお聞かせください。授業は英語ですか。

加賀谷 ビジネススクールはMBA学位を取得するか、企業のエクゼクティブ研修のような学位なしに大別されます。まずMBA学位を取得するカテゴリーはフルタイムMBAとよばれていますが、ここでのランキングはIESAは世界10位くらい、ヨーロッパではトップクラスで、2年制を取っています。授業は英語ですが、オプションでスペイン語講座がありますのでEUスケールのB2レベルまで習得可能です。一方、私の担当である企業対象のエクゼクティブ・エデュケーションとよばれるのがMBA学位なしのカテゴリーで、ここでは6年連続で世界トップをキープしています。役職階層別にいろんな企業から参加者を集めて行うオープンと、それぞれの企業ニーズに合わせたカスタマイズの2種類があり、期間は千差万別です。IESEのMBAでは1学年5クラスの350人、その中の15人前後、2学年で30人ほどの日本人学生がキャンパスにいます。地域ごとに見ればアジア25%、EU40%、中東・アフリカ5%、北中南米30%です。授業は講義ではなく、ビジネスで実際に起きたシチュエーションを想定して、その主人公になって意思決定やアクション



プラン等を1000本ノックのようにひたすらディスカッションをする「ケースメソッド」をとっています。このやり方をメインの教え方として採用しているのはIESEやハーバードなど世界的にも数校しかありません。特にIESEでは先ほどの学生の多国籍・多様性が、相手の発言にフェアに耳を傾け議論を進めることにつながっています。ここもIESEのいいところだと思います。

AMICS 授業料は高いのでしょうか。ビジネススクールを選ぶにはその土地の魅力も大きく左右するのではと思います。バルセロナでの学生の暮らし向きはどんなのでしょうか。

加賀谷 ビジネススクールを選ぶ際にバルセロナという街、文化、気候、食べ物大きな魅力になっているのは間違いないですね。授業料は2年間9万ユーロですから1000万円強と安くはありません。会社負担だと手当も含めて2000万はかかっているようです。1学年350人のうち15%、日本人留学生では年にもよりますが3分の1から半分くらいが社費です。私は私費留学でしたが2年間飢えない様にするのにカツカツでした(笑)。社費留学組は家族連れだったり、やはり余裕がありますね。カツカツ組を家に招いてごちそうしてくれたりとか。どちらにとってもバルセロナの街、空気、海と山の食べものは期待通りでしょう。もちろんFCバルサもです。バルセロナにおけるIESEの日本人コミュニティは学生の数に家族を加えて70人強です。現地の方と結婚されて教授のアシスタントをしている日本人スタッフもいます。在カタルーニャ

の日本人がざっと2000人とされますから、けっこう存在感があると思います。

AMICS マドリッド2年、バルセロナ4年を振り返って、ご自身の体験としてはどんな点がよかったと思われますか。

加賀谷 ちょっと抽象的になりますが、カタルーニャからの目線でヨーロッパやアメリカ、そしてアジアを認識したことは大きな意味がありました。2009年から2011年の4年間はカタルーニャの独立運動が高揚したときで、歴史の中の場所に身を置いたことも臨場感を覚えています。マドリッドはスペインの中のスペインという保守的な印象でしたが、バルセロナはクリエイティビティーを認める包容力のあるコミュニティですね。気候、海、開放感、それに経済がそれをつくっています。だからピカソ、ガウディ、ミロ、それにフェラン・アドリャもロカ兄弟も出てくるし、FCバルセロナはクライフを認めます。クリエイティブ懐が深いです。一番好きな場所ですか？グエル公園のベンチのあるテラスです。今は難しくなってしまったとも聞きますが、夜が明ける時間にジョギングで行くので誰もいないんです。湾曲したガウディのベンチ越しに地中海から上ってくる太陽。静寂なそして清々しい時間です。

<AMICSの眼>

インタビューは3月11日。10年前の東日本大震災ではIESEの学生が自分の所属企業を巻き込みFCバルセロナと調整。サッカーを通じた被災地への応援プログラムを実現したと伺った。他にも日本の商品の導入や企業同士の交流を支援するケースもあるそうだ。個人・企業・社会

で三方良しを目指す創設の意思はバルセロナだからこそこのビジネススクールに結実しているんですね。(取材/文 原正彦)



【IESE】
●South Campus
Av. Pearson, 21,
08034 Barcelona



●North Campus
C/Arnús i Garí, 3-7,
08034 Barcelona

加賀谷 順一

2004年慶應義塾大学総合政策学部卒業。Universidad Politécnica de MadridでEUやマドリッド自治州の政策評価に関わった後、東京でベンチャー企業の立ち上げに従事。2009年にIESE留学。2011年のIESE卒業ののち現職。趣味はワインとサーフィン。
IESE東京オフィス：www.iese.jp

Topics

ゴヤ映画祭開催、映画「LAS NIÑAS」が最多受賞

3月6日にスペイン映画芸術科学アカデミー主催による第35回GOYA映画祭の授賞式がマラガで開催された。今回はパンデミックの影響で、無観客の会場でのセレモニー、およびオンライン配信のハイブリッド方式が採用された。会場プレゼンターはアントニオ・パンデラスと女優のマリア・カサドで、その他にペドロ・アルモドバル、ベネロペ・クルス、パス・ベガ、アレハンド

ロ・アメナバルといったスペイン映画界のスターがプレゼンターとして登壇した。

今回、最多受賞となったのはピラール・パロメロ監督の「Las Niñas」(少女たち)で、最優秀作品賞、最優秀オリジナル脚本賞、最優秀映像賞、そして最優秀新人監督賞の4部門で賞を獲得した。(エル・ペリオディコ紙)

スペイン初の電気自動車用バッテリー工場

スペイン政府産業・通商・観光大臣は、3月4日に開催された産業・建設・農業労働者総同盟の労働組合会議において、自動車メーカーSEAT社と電力会社IBERDROLA社が官民共同コンソーシアムを設立し、スペイン初のバッテリー工場を建設すると発表した。このコンソーシアムは、電気自動車やコネクテッドカーへの移行を目標にした、スペイン政府主導「経済復興と返還のための戦略プロジェクト」の一環として実施されることになる。このプロジェクトでは、電気自動車生産のために必要なインフラや設備、メカニズム構築を約束しており、電気自動車生産に競争力を持たせるために、他国に依存することなくバッテリー生産をすることが最優先項目であると大臣は述べた。

バッテリー工場はバルセロナ県マルトレイ市のSEAT工場近くに建設される予定。SEAT社は、高級車部門CUPRAの電気自動車モデルを国内生産する代わりに、政府が電気自動車普及の支援をするよう交渉している。一方、スペイン政府は2020年夏に開始された電気自動車購入インセンティブに2000万ユーロの追加予算を約束しており、さらに2021年夏ごろには4億ユーロの予算で新たなインセンティブ計画を実施すると発表した。今回のバッテリー工場建設プランはSEAT社だけでなく、他の自動車メーカーにも大きな恩恵をもたらすプロジェクトであり、今後のスペインにおける電気自動車への移行に拍車をかけることは間違いない。(エル・ペリオディコ紙)